

## 寅さん歩 その 26

### 東京の主要道路の起点～終点

#### 早稲田通り－3



平野 武宏

道路名の標識・経路案内標識や標識の数字・その形に興味を持った寅次郎、東京の主要道路を起点から終点まで道路標識を頼りに歩いて、各交差点で交差する道路を学びたいと思い、2021年10月から「不忍通り」、「白山通り」、「春日通り」、「明治通り」、「昭和通り」、「平成通り（番外編）」、「靖国通り（元 大正通り）」、「内堀通り」、「目白通り」、「目黒通り」、「本郷通り」、「世田谷通り」、「江戸通り」、「外堀通り」、「山手通り」、「環二通り」、「外苑東通り」、「外苑西通り」、「永代通り」、「中央通り」、「桜田通り」、「新大橋通り」、「清澄通り」、「日比谷通り」、「晴海通り」、「新宿通り」、「青山通り」、「玉川通り」、「尾久橋通り」、「尾竹橋通り」、「言問通り」、「墨堤通り」、「多摩堤通り」、「三ツ目通り」、「四ツ目通り」と歩いてきました。

今回は「早稲田通り」を歩いています。早稲田通りは千代田区九段北の靖国通りの田安門交差点を起点に、杉並区上井草の青海街道の井草八幡前交差点に至る延長約 15 km の東西の道です。写真右上は早稲田通りの道路名標識で起点からの都道 25 号線は途中で都道 438 号線の名に変わります。前は新宿区馬場下町交差点から大和陸橋交差点まで歩きました。

今回は中野区大和陸橋交差点から終点の杉並区井草八幡前交差点まで歩きます。掲載の写真は人や車の密を避けた時間帯に撮影しました。詳細を知りたい方は各道路のホームページをご覧ください。最寄駅は交通機関を利用した場合の代表駅です。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

[大和陸橋交差点] 中野区野方一丁目

最寄駅 JR 中央線 中野駅

大和陸橋交差点（写真下右）で環七通り（都道 318 号線）と交差します。左へ行くと大原方面、右へ行くと豊玉方面で、上は環七通りの高架の陸橋です。



## [お伊勢の森] 杉並区阿佐ヶ谷六丁目

最寄駅 JR中央線 阿佐ヶ谷駅



杉森中学校（写真下左）の角に「お伊勢の森」の説明板がありました。

「杉森中学校からお伊勢の森児童遊園にかけて阿佐ヶ谷天祖神社の旧社地のお伊勢の森がありました。江戸時代の名所案内書の江戸名所図会に日本武尊が蝦夷を征伐して凱旋の時、ここで休んだので土地の人が武尊の武功を慕

って社をつくり神明宮とした。その後、建久年間(1190～1198)に伊勢神宮から霊石を持ち帰り、ご神体にした。土地の人からはお伊勢の森と親しまれました。天然記念物のトキもすむほどの静かな森であったようです」と記載。

## [民間信仰石塔] 杉並区阿佐ヶ谷北五丁目

最寄駅 JR中央線 阿佐ヶ谷駅



左側に四基の石塔（写真左）があり、年配のご婦人が丁寧にお参りしていました。薄く読みにくくなった説明板によると1600年～1700年の銘がある民間信仰の阿弥陀塔とのことです。

またこの前の道はかつての所沢道、左の道は天沼から青梅街道に通ずる道でこの付近は村の中心だったそうです。

## [阿佐ヶ谷北六丁目交差点]

杉並区阿佐ヶ谷北六丁目

最寄駅 JR中央線 阿佐ヶ谷駅

阿佐ヶ谷北六丁目交差点（写真下右）で中杉通り（都道 427 号線）と交差します。左へ行くと阿佐ヶ谷駅方面、右へ行くと鷺沼方面です。早稲田通りは直進します。



## [本天沼二丁目交差点]

杉並区本天沼二丁目

最寄駅 JR中央線 荻窪駅

本天沼二丁目交差点（写真下右）で右は下井草方面へ向かう旧早稲田通りが分岐します。



## [永久橋交差点・永久橋]

杉並区本天沼三丁目

最寄駅 JR中央線 阿佐ヶ谷駅

永久橋交差点（写真下左）の先は妙正寺川にかかる「永久橋」（写真下右）です。

妙正寺川は妙正寺公園内の妙正寺池を源に江古田川と合流して新宿区下落合一丁目で神田川に合流します。



## [清水三丁目交差点] 杉並区清水三丁目

最寄駅 JR中央線 荻窪駅からバス利用

左側奥が妙正寺公園を過ぎると清水三丁目交差点（写真下右）です。ここで環八通り（都道 311 号線）と交差します。左へ行くと荻窪方面、右へ行くと谷原方面です。ここから先の早稲田通りの道路名は都道 438 号線に変わります。



## [東京都立農芸高等学校] 杉並区今川三丁目

最寄駅 JR中央線 荻窪駅からバス利用

右側に「東京都立農芸高校基礎農場」の立て看板（写真下左）ありました。その先左が「東京都立農芸高等学校」（写真下右）です。創立 120 周年、定時制課程 70 周年の横断幕が掲げられていました。寅次郎、初めて知った高校です。



## [井草八幡前交差点] 杉並区善福寺一丁目

最寄駅 JR中央線 荻窪駅からバス利用

青梅街道の井草八幡前交差点（写真下右）が早稲田通りの終点です。前の鳥居は井草八幡宮北鳥居です。



## [こぼれ話 井草八幡宮] 杉並区善福寺一丁目

最寄駅 JR中央線 荻窪駅からバス利用

早稲田通りは井草八幡前交差点で終点ですが、目の前は立派な北鳥居の井草八幡宮入口なのでお参りします。「井草八幡宮」は旧上井草村、下井草村の鎮守で境内東側付近からは縄文時代中期の住居址が発見され、多くの土器が発掘されています。「北鳥居」（写真下左）を入り、玉砂利を踏んで静粛かつ荘厳な雰囲気「北参道」を進むと「楼門」（写真下右）があります。



その先の「社殿」（写真下右）の手前には源頼朝が 1186 年（文治 2 年）奥州藤原泰衡征討の際、戦勝を祈願してお手植、寄進したという天然記念物の大きな松があります。残念ながら 1973 年（昭和 48 年）に枯れてしまいましたが、現在は初代の流れを汲んだ二代目の「源頼朝お手植の松」が大事に育てられています。太田道灌も戦勝祈願を行い、三代将軍徳川家光は社殿の造営を命じています。



これにて早稲田通りを起点から終点まで歩きました。高田馬場駅付近までは歩いたことがありますが、その先は初歩きで、長い道のりの早稲田通りでした。でも締めくくりに荘厳な百草八幡宮にお参りして、すがすがしい気持ちで帰路についた寅次郎でした。

[バーチャルウォーク途中経過]

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、現在はバーチャルウォーク 松尾芭蕉とあるく「奥の細道」に挑戦しています。全行程約600里(約2400km)の長旅なので最後までたどり着けるか心配ですが、目標があれば元気に生きられると強がっています。2022年4月26日、江戸深川(現在の江東区深川)を出発、2023年6月1日大聖寺・全昌寺(現在の石川県加賀市)(江戸深川から1881km)に到着しました。八柳さんのコースシートには、次の「奥の細道」本文の評釈と俳句の注釈が掲載されています。

大聖寺の城下はずれ、全昌寺という寺に泊まる。ここもまだ加賀の地である。曾良も前の夜、この寺に泊まって、

「よもすがら 秋風聞くや 裏の山」 曾良

(注釈：一晩中、眠りにつけずに、裏山の木立の上に吹きわたる蕭々(しょうしょう)(物寂しく風が吹く)たる秋風の音を聞き明かしたことだ。師に別れた一人旅のさびしさに)

この後、芭蕉は松岡・天龍寺(現在の福井県永平寺町)へ向かいます。

毎日の運動不足対策や事情で例会に参加できない場合はマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。FWAのHP「YR・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コースが紹介され、各コースシートが印刷できます。また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印刷して利用ください。

平野 寅次郎 拝

